



関西支部

関西支部主催ミニシンポジウム報告

支部長 田中 俊雄

関西支部では支部活動活性化の新たな試みとして、大規模なシンポジウムではなく、膝を交えて議論し、新たな研究の芽が生まれるような小規模研究集会および若手研究会への支援を企画した。今回の支部のページではその内容を紹介する。

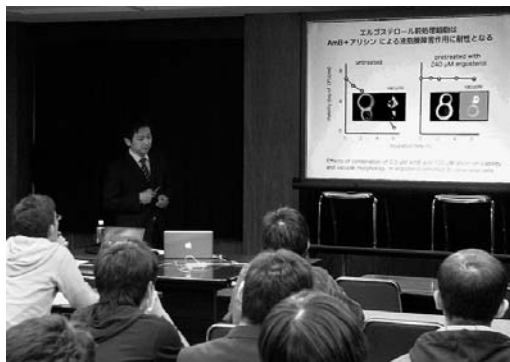
1. 関西応用微生物シンポジウム

—酵母をもっと生活に活かす—

日時：2009年12月4日（金）

場所：大阪市立大学、田中記念館

近年、酵母のもつさまざまな機能や特性を引き出し、増幅、改変することで、それ自身の有用性を高めたり、有用物質の生産や応用開発につなげる試みが多く見られる。本シンポジウムでは、1. 抗真菌化学療法の新たなターゲットの開拓—出芽酵母をモデルとして— 2. 細胞壁構造改変による酵母の新たな展開 3. 酵母によるペクチンの分解・代謝と産物の利用 4. タンパク質発現解析を応用した清酒用酵母の開発と実用化と題する4つのタイトルで講演、討論を行った。大学院生を中心とする若い研究者達にとっては、日頃の学会などとはひと味違う有意義な機会になったことと思われる。



講演の一つから

2. 若手シンポジウム：次世代を担う生物工学技術

日時：2009年11月26日（木）

場所：神戸国際会議場、神戸市

オーガナイザー：河原正浩（東京大学）、加藤竜司（名古屋大学）、大政健史（大阪大学）

神戸国際会議場にて開催されたアジア太平洋生物化学工学国際会議（APBioChEC'09）の会場をお借りして、セルプロセッシング計測評価研究部会の第一回若手研究シンポジウムを開催した。このシンポジウムは博士課程、およびポストドク研究者の研究を奨励し、表彰の機会を設けることで、研究部会の活性化と生物工学会を牽引する若手研究者の自覚と育成を目指して企画されたもので、短い募集期間にも関わらず、全国から集まった博士課程学生5名、博士研究員5名の合計10名の新進気鋭の若手の研究者が、それぞれ自分の研究について講演を行い、非常に活発な議論を行った。発表された方の国籍もさまざままで、英語もしくは日本語での発表と質問がとびかい、当初予定されていた2時間半を30分以上も超えて白熱した議論が続いた。

第一回の研究部会若手研究奨励賞はそれぞれ1名の方が受賞された。あまりにも白熱した議論のために、会場が使える時間が過ぎてしまったので、ロビーにて急遽表彰を行い、博士課程の学生として佐々文洋さん（筑波大学）「バイオケミカルマイクロプロセッサの開発」、博士研究者として佐野卓磨さん（産総研 セルエンジニアリング研究部門）「固相トランスフェクションにおける抗インテグリン抗体の効果」がそれぞれ研究部会長から表彰状を授与された。



受賞者を囲んで参加者一同

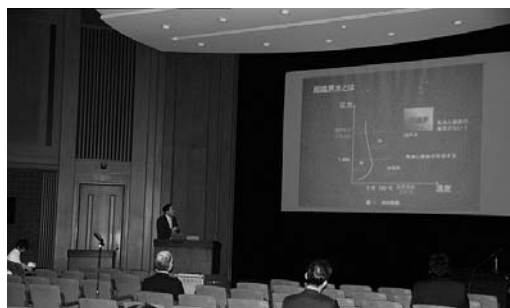
3. SFC テクノロジーシンポジウム： 超臨界流動技術の胎動

日時：2009年11月27日（金）

場所：大阪大学銀杏会館

超臨界流体クロマトグラフィー（SFC）は、ガスクロマトグラフィー（GC）や液体クロマトグラフィー（HPLC）にない特性を有する分離手段として注目されているが、GC、HPLCに比べて認知度が低く、その有用性も十分に理解されていないところがある。そこで、SFCのすばらしさをもっと知っていただき、ユーザーとしての第一歩を踏み出していただくきっかけになればと当該シンポジウムを企画させていただいた。

今回のシンポジウムでは、「超臨界流体の胎動」をテーマに、国内外のSFCユーザー、メーカーのほか、超臨界流体を用いた最先端の技術開発に取り組んでおられる東京大学の太田義人先生ならびに静岡大学の佐古猛先生をお招きし、超臨界流体テクノロジーに関する幅広い実例研究の特別講演をいただいた。80名を超える多数の方にお越しいただき、各講演において活発な議論がなされた。当該シンポジウムを通して、超臨界流体の優れた特性を利用した各種技術について理解を深めていただき、超臨界流体のさらなる可能性を十二分に感じていただけたのではないかとと思う。今後SFCを含む超臨界流体テクノロジーの可能性を共有いただける方の輪が広がり、さらなる技術開発が進展することを期待している。



講演会より

4. メタボロミクス講習会：理論と応用の理解から、分析、データマイニングまで

日時：2009年12月18日（金）、19日（土）

場所：大阪大学工学研究科生命先端工学専攻内

オーム科学の一つとして注目されているメタボロミクスのバイオテクノロジー研究の戦術としての有用性を知っていただくとともに、実際にメタボロミクス研究を実施していただけるための技術の理解と習得の一助となることを目的として題記のセミナーを開催した。多数の参加希望をいただいたが、講習内容の充実を優先し、定員6名で実施した。

講習会は、12月18日午前中に、メタボロミクスの原理ならびに、種々の応用実例の紹介を含むイントロダクション講義を行った。その後、昼食をとりながら、講習会参加のモチベーションなどを参加者各位からお聞きした。午後、メタボロミクス実験を実際行う際に注意すべき点について、特に試料調製、分析、データ解析の側面からノウハウも交えて講義を行った。その後、2グループに分かれて、メタボロミクスの実験実習（GC/MS、LC/MS、FT-NIR）ならびに、データ解析方法（マスクロマトグラムの生データ補正、ピークリスト作成、代謝物リスト作成、多変量解析によるデータマイニングなど）について参加者各位に実際に体験していただきながら詳細な解説を加えた。参加者はいずれも企業などの中堅研究者であり、実際の研究を想定しての高レベルの質疑がなされた。特にデータ解析講習時にはきわめて活発なディスカッションが交わされ、主催者としても有益な知見を得ることができた。参加者各位からは大好評を得たので次年度も実施する予定である。



メタボロミクス講習会風景